

地区別相談会及び就労アセスメント説明会

2月5日、いわき地区特別支援学校4校合同で地区別相談会と、就労継続支援B型事業所利用に係る就労アセスメントの説明会が行われました。

18歳（高等部3年生）になると、福祉サービス利用に関して子どもから大人へのサービスに変わるために様々な手続きが必要になります。そのため、何をいつ頃までに手続きしなければならないのか、市の障害福祉課の担当者と居住地区の保健福祉センターの方に来校していただき、概要説明等をしていただきました。

CHECK!

福祉サービスの利用には、「サービス等利用計画」が必要です

サービス等利用計画とは、福祉サービスを受ける方にとって、「ニーズは何か」、「必要な支援は何か」、「目指す将来像はどのようなものか」などを明らかにし、適切なサービスを受けられるようにするための計画書です。この計画書をもとに、市はサービス支給の決定を審査しますので、卒業後、福祉サービスを利用するほか、在学中に放課後等デイサービスを使いたい場合などにも**必ず必要**になるものです。

サービス等利用計画は、**計画相談事業所**と契約して作成してもらいます。契約できる計画相談事業所がみつからない場合は、ご家庭で作成（**セルフプラン**）することも可能です。

CHECK!

B型事業所を利用する場合、在学中にアセスメント実習を行います

卒業後、B型事業所を利用する場合、各支援機関が継続的な就労支援をしていくために、アセスメント（客観的評価）実習を行うようになります。**高校3年時**に、学校行事として行っている**現場実習**とは別に、就労移行支援事業所にて5日間の実習を行い、**作業能力や作業態度、社会生活力**などについて評価していただきます。実習先については、学校が取りまとめをしますが、契約等についてはご家庭で行っていただくようになります。

移行支援会議について

2月下旬より、高等部3年生を対象に移行支援会議を行っております。移行支援会議とは、学校生活から社会生活へ安心して移行できるようにするための引継ぎの会です。進路先、計画相談支援事業所、各地区保健福祉センター、保護者、本人、担任、その他の関係機関の皆さんにお集まりいただき、学校での成長の様子などについてお伝えし、**お子さんのことをよく知っていただいたり、それぞれの機関がどんな役割を**して、どんな時に利用すればよいかなど、**サポート体制について確認**したりします。

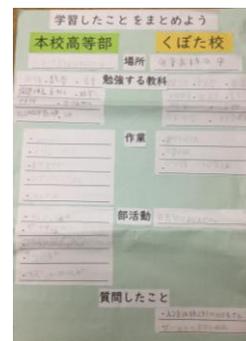
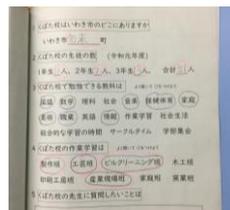
本校卒業後も、学校も含め、各機関がチームとしてお子様をサポートしていきますので、安心して地域生活を過ごしていただきたいと思います。

～ 中学部の進路学習 ～

中学部の進路学習の一環として、3学年では本校高等部やくぼた校の説明会を実施しました。

本校高等部の説明会は、視聴覚室において、高等部で勉強する教科や部活動、通学方法などについての話を聞き作業学習の様子を見学しました。また、くぼた校の説明会は実際に学校を訪れ、概要についての話を聞いたり校内や作業学習の様子などを見学したりしました。

集中しながら話を聞いてメモを取ったり、作業学習で作っている製品に興味をもったりするなど、高等部進学への意欲を高めることができるよい機会となりました。



中学部では生徒に合わせながら、中学部卒業後や将来についてのイメージがもてるような進路学習をそれぞれの学級で行っています。生徒一人一人の理想や将来への思いを育み、それらを大切にしたい進路学習を今後も進めていきたいと思えます。

～ 高等部の進路学習～



高等部は職業生活を目前に控えた最終段階です。そのため、1つの教科だけではなく、学校生活全体を通して、社会人として求められる力について学習を積み重ねています。その中でいくつか今年度に行った進路学習をご紹介します。

まず一つは、職業という教科学習です。就労に必要な態度から金銭管理の方法、情報機器の扱い方などについて主に職業生活に必要なことを学習するものです。今年度は地域の方々や卒業生にもご協力いただき学習を進めてきました。社会人として求められる身だしなみについて外部講師の方を招いて指導していただいたり、公共職業安定所やいわき障害者就業・生活支援センターに校外学習に行き、就職や職業生活に必要な心構えを教えていただいたりしてきました。また、昨年度の卒業生を招いて「働くこと」についてグループトークする学習も行いました。その成果として、社会人として必要な力や意識が着実に高まってきているのを感じます。

2つ目は作業学習です。高等部では5つの作業班に分かれて、作業学習を行っています。企業や事業所から求められる人材の共通点として「真面目で素直なこと」「休まないこと」「集中して作業に取り組めること」などがあります。当たり前のことと思われがちですが、とても大切なことです。そうした力を、週に8時間ある作業学習の活動を通して育てています。